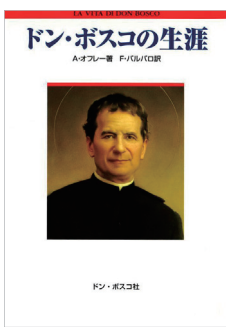




司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、高橋聡神

父様(明石教会)が担当。高橋聡神父から



『ドン・ボスコの生涯』(A・オフレイ著、F・バルバロ訳、1964年初版、ドン・ボスコ社、税込1430円)

これは、私が高校生の頃に読んだとき、心に最も深く印象を残した本の一つです。ドン・ボスコという人は、典礼で「聖ヨハネ・ボスコ」として1月に記念日が祝われていますが、彼は青少年に真の希望を与える人でした。この文章を書きながら、神が聖ヨハネ・ボスコにお与えくださった魅力に引き込まれるようにして読んだ、当時の記憶がよみがえってきました。

教会の図書棚にあるのをなげなくふと目にして借りた本で、しかも相当昔に読んだので、もう手に入らないと思っていました。が、この企画の執筆依頼が来た時、恐る恐る調べてみましたら、今でも手に入る本だと分かったので、紹介することになった次第です。

聖ヨハネ・ボスコは青年に夢を与える人でしたが、自身も神から与えられた夢によつて導かれていました。それは、神様ご自身が抱いておられた夢でもあったでしょう。

ラジオ 信仰の時間

この家に平和があるように
ヌノ・デ・リマ神父 (玉造教会主任、7月3日放送分)

今日、カトリック教会では、72人の弟子が派遣される場面が主日のミサで朗読されます(ルカ10・1~12, 17~20)。イエス様は、ご自分が行くつもりの方々のすべての町や村に弟子たちを二人ずつ先に遣わされました。

この派遣にあたって、イエス様は弟子たちにさまざまなアドバイスをなさいます。この箇所を、過去の弟子たちへのアドバイスとして読むよりは、現代社会に生きる私たちへのメッセージとして読んでみたら、心豊かに生きるヒントを見つけることができると思います。

イエス様は、派遣する弟子たちに着る物や履く物について、また持ち物について、あまり心配しないようにアドバイスをなさいます。弟子たちが、イエス様のように自由に歩き回れるようになるために。

イエス様はその他のアドバイスもなさいましたが、今日は皆さんと一緒に、イエス様の一つの言葉について考えていきたいと思えます。それは「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい」という言葉です(同5節)。

派遣された弟子たちは人びとに平和のメッセージを伝えていきます。聖書の世界では、「平

和」は「シャローム」といいます。現代のイスラエルでも日常の挨拶です。聖書の世界では「シャローム・平和」という言葉は、単に争いが無い状態ではなく、「すべてが満たされている状態」を意味します。そうした意味で、聖書で語られる「平和」は、まず神様の恵み、贈り物です。弟子たちはその平和のメッセンジャーです。出会っていく人びとに『この家に平和があるように』と告知知らせます。

続いて、イエス様は興味深いことをおっしゃいます。「平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる」(同6節)。

平和は神様の贈り物であるとともに、人間がつくり上げるものでもあります。つまり、平和が実現するには私たちの努力が必要です。弟子たちは平和の輪を広げるために派遣されます。同じ思いをもつ人に出会う場合、自然に平和の輪が広がります。しかし、いつでもうまくいくわけではありません。それは、自分が平和を願っていても、相手が違うことを考えているときもあるからです。そのようなとき、自分の平和が奪われたような気持ちになることがあります。そのようなことに振り回されないようにするには、心の平和を保つことが大切です。イエス様が「平和があなただがたに戻ってくる」と言うのは、「相手がどうであれ、あなたの平和を奪うことはできない」ということではないでしょうか。

このようにして考えると、平和は私たち一人ひとりがつくり上げるものだけということが分かります。逆に、平和を壊すのも私たち一人ひとりなのです。

最近、ウクライナなどの戦争・紛争地域の



今回は、中川明神父様(明石教会)です。

ため、平和の祈りをささげますが、その意味について考えさせられました。

私たちが「平和がありますように」と祈るのは、一日も早く平和が戻るようにと祈るとともに、一人ひとりが平和を大切に、それぞれの場から平和の輪が広がっていきますように、と願うためです。

ウクライナのためにも、私たちのためにも、この「平和」を大切にしたいと思えます。



毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
9月担当: 和越敏 神父
ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。

第41回 日本カトリック正義と平和全国集会 大阪大会 2021
分科会動画視聴のお知らせ
2021年11月22・23日(月・火)に行われた大阪大会の30の分科会のうち、戦争や環境問題、心の病などに関するいくつかの録画(動画)が限定公開されました。視聴の方法や申し込みは下記QRコードからご確認ください。
今後も順次動画を限定公開していく予定です。
~誰も置き去りにしない世界に向けて~
No one will be left behind.

大阪カトリック時報は下記URLでもご覧になれます。毎月1日に掲載されます。Web上でも引き続きご愛読くださいますようお願いいたします。
http://www.osaka.catholic.jp/no_side/jiho.html

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア) リハビリ・神経内科 肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父
〒562-8567 箕面市粟生間谷西6-14-1
☎072-729-2345
医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで
~私たちに聴かせてください~
カトリック大阪大司教区
セクシュアル・ハラスメント
相談窓口
電話番号: 06-6941-9718
相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時
あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は守られます。